

## 第76回 国際経済協力セミナー

### WTO の現在

講演者：早藤昌浩氏

世界貿易機関（WTO）貿易政策検討部参事官

文責：永井哲平



今回、世界貿易機関（WTO）貿易政策検討部から早藤昌浩参事官にお越しいただき、ご講演していただいた。早藤氏は、1985年ブラウン大学で数理経済学の学士号を取得され、1994年オックスフォード大学で経済史の修士号を取得。1986年当時の通商産業省に入省され、様々な部署に勤められた後、1996年よりWTO貿易政策検討部貿易政策分析官となり、現在WTO貿易政策検討部参事官（アジア・大洋州担当）として活躍されている。講演はWTOを中心とした世界経済の話題から始まり、世界のボーダーレス化の現状、WTO等国際機関で働くために必要なことというように展開された。

### 世界貿易機関（WTO）の役割

世界経済は、情報通信や交通機関の発達、市場経済化、生活水準の向上などを背景に、グローバル化、ボーダーレス化している。一方で、世界を構成するのは未だに主権国家やそれに準じた存在である。秩序を守り、それを侵すものにある程度の強制力を持って処罰を与えられるような、主権国家同士の世界経済に関わる様々な取り決めが必要である。国際機関には他に IMF、世界銀行など多数あるが、WTO は投資も含めた国際間の取引、すなわち貿易に関する役割を果たしている。そのような状況の中で、WTO は貿易に特化する国際機関として以下の役割を担う。

#### 1. 貿易に関する世界的なルールを策定する

国際的な経済成長を目指し、法外な関税率の引き上げを抑制するなど、貿易の自由化に向けたルールを策定する。例えば、国際的なルールがなければ、ある国が、ある日突然特定の品目の関税を引き上げることも可能になる。このような事態を抑制し、時に強制力を持って行使するために、様々な取り決めを作成する。

#### 2. 策定されたルールの実施に関する作業

各種委員会等の開催、各国の政策などのモニタリング、貿易政策のレビュー、キャパシティー・ビルディング、(各国に向けた、実務能力等を高めることを目的とした研修)、Aid for Trade (貿易のための援助)、関連統計の作成などが、WTO の主な作業である。特に、各国の政策や政府の考えについては質問しないと分からないことも多い。早藤氏は、日本政府に対して質問をし、回答を得る仕事などもされている。

#### 3. 貿易に関する紛争を解決する機能

貿易上の紛争に対しては、紛争解決機関や上級委員会によって加盟国の貿易紛争を WTO が定めたルールの下、解決を試みる。参加国内の紛争であれば、裁判によって制裁を科すことができる。ただし、主権国家のような強制力はないので、様々な方法で紛争が解決されるよう努めている。

### WTO の組織

GATT を前身とする WTO は、常設の国際機関として 1995 年に設立された。メンバーは 121 の途上国を含む 164 の主権国等で、香港やマカオなど国家ではない主体もメンバーである。事務局はジュネーブにのみ設置されている。職員はおよそ 700 名で、

うち4人が日本人である。また、公用語は英語、スペイン語、フランス語である。

## WTOの基本原則

WTOの意思決定はコンセンサス方式であり、最高意思決定機関はおよそ2年に1回開催される閣僚会議である。また、事務的には一般理事会で決定を行い、下部機関に各種委員会も設置している。WTOはこのような組織を以て、貿易を通じた世界の持続可能な経済成長、生活水準の向上、貧困の削減、平和と安定への寄与、被差別原則、透明性の向上、途上国への配慮を踏まえたより自由な貿易環境の形成（輸入量制限の禁止）を目標としている。

## WTOで働くために必要な能力

### 語学力（論理的思考力）

世界に情報を発信する仕事。間違った英語では仕事にならない。ちゃんと読めて、ちゃんと書ける能力が必要となる。また、英語に限らず、スペイン語やフランス語もある程度読めなければならない。

### 専門分野の知識

専門分野に関しての十分な知識加えて、一般常識が求められる。開かれた心、一人の人間ができることなど限られているという謙虚な心を持ち、相手の言うことを理解しようとして聞くことが重要である。

## 質疑応答

Q 多国間の貿易協定を結ぶ際の、国益の基準は？

A 基準はない。それぞれの国家が提示する国益が、国益である。

Q 英語の上達方法

A ひたすら読み書きをすること。語感のあるネイティブに私たちが対抗するには、完璧な文法の理解に基づく正確な英語を使うこと。

Q イギリスのEU離脱とアメリカのトランプ現象は「グローバル化」「ボーダーレス場経済化」に逆行しているのではないか。

A. 地域統合は多角的貿易システムがあって始めて意味がある。多角的貿易システムを通じての世界経済の発展が基礎だと考える。

Q 日本が米などにかかる高い関税は必要か、国益を損なっているか。

A 消費者の利益は関税によって損なわれるのは貿易理論の教えるところであるが、農家の人々の経済状況を考慮するという配慮も政策としてはあるのだろうと考えられる。

Q 協定を結ぶ際、途上国へのどのような配慮をしているか。

A ある規則を途上国には適用外にしたり適用に猶予をもたせたりする。しかし、途上国はそのままでは発展しない可能性が高いので、キャパシティー・ビルディングなども行う。

今回の講演では WTO の基礎知識から、米国大統領選などタイムリーな話題についてもお話をいただいた。日本の価値観や欧米の価値観といった考えにとらわれず、国際的な視点を持つことの重要性を感じた。米国大統領選の影響や自由貿易協定などを考える際に、専門知識をもとに冷静な分析を行うことが必要であると考えている。